

子どもが熱中するボールあそび（体育・低学年）

小清水町立小清水小学校 校長 寺 本 聡

0. プロローグ

新採用1年目の終わり頃から、幸運にも「教師の勉強会（サークル）」に参加する機会に恵まれた。正に本師範塾と同様に、出会いであり、サークルでの学びが無ければ、今日の私は無いと思っている。そこで学んだことこそ、次のことである。

学び続ける教師だけが、子どもの前に立つことができる。

管理職になってからも、このことは肝に銘じている。そして、次のようでありたいと考えている。

授業のできる、授業の事実で語ることでできる管理職（校長）

私が学んだ、そして尊敬する校長先生は、皆、授業の上手い方ばかりであった。幸いにして、現在も身近にそんな校長先生が居ることを嬉しく思うと共に、自分自身の刺激にしていきたいと思っている。

さて、本稿である。管理職になってからもずっと、何らかの形で授業（公開含む）を行ってきている。以下は、教育実習生参観授業の指導案内容に一部追加・加筆したものである。対象は小学校2年生22名（うち1名は特別支援学級（肢体不自由）の児童）、体育館での実践である。

1. 教材について

低学年のうちに、運動の「基礎感覚・基礎技能」を身に付けさせることが、体育では極めて重要である。しかも、それは子どもにとっては遊び感覚で、楽しいものであることがポイントとなる。楽しいからこそ、子どもは夢中で取り組み、その結果、先の基礎感覚・基礎技能が身に付いていくのである。

※基礎感覚とは→逆さ感覚、高さ感覚、空中感覚、平衡感覚、腕支持感覚、回転感覚等
※基礎技能とは→例えば「ボールを投げる」「ねらったところに投げる」「捕球する」等

本教材は、学習指導要領に示されている内容「E ゲーム」の中の「ア ボールゲーム」に属するものである。

ボールゲームはさらに「ボール遊び」と「ボール投げゲーム」、「ボール蹴りゲーム」で構成される。ここで扱うのは「ボール遊び」の内容であり、手でボールを扱う遊びを通して、ボール投げゲームにつながる運動づくりをねらいとするものである。

2. 体育授業における留意点

体育の苦手な先生にもできる体育の指導法として、次の3つのキーワードがある。

- ①システム（何をどれだけするのが子どもにわかる）
- ②変化のある繰り返し（スモールステップになっている）
- ③個別評定（自己評価を含む）

さらに、体育の授業を行うに当たり、次のことが大切なポイントとなる。

- 1. 安全への配慮
- 2. 汗をかくほどの運動量を確保する
- 3. 技術の習得がある
- 4. 仲間との関わり合いがある
- 5. 何らかの発見がある

以上のことに留意して授業を行うことで、子どもは熱中して活動し、できない子ができるようになっていく。上記のことは、向山洋一氏の実践に学んだことである。

3. 実践のねらい

- ①ねらった所（かご）にボールを投げることができる。

4. 授業の実際

（1）準備運動

本時の運動につながる運動や動きとして、次の内容を行う。

- ①リズム太鼓に合わせて体育館の中を自由に動く（テンポ良く、スキップ、ギャロップ、バック走等を取り入れて行う。）

指示1 太鼓の音に合わせて、体育館の中を自由に動きます。できるだけ、人の居ないところに行くのですよ。

ここでは、「空いている場所を見つける能力」「そこに自分の意志で動く能力」を養うことを意図している。

②ボールを手で操作する簡単なゲームをする

その場で次に示すボール操作をしてから、数メートル先に置かれたコーンにタッチして戻ってくる。次の人に、ボールとボールでタッチして交代する。列による競争を行う。操作する内容は、1)の競争の後に2)の競争というように、テンポ良く行っていく。

- 1) ボールをその場で投げ上げてキャッチ。
- 2) ボールを投げ上げ、その間に手打ちをしてキャッチ。（回数を変えて数回行う）
- 3) その場でボールをついてキャッチ。（つきかたを変えて数回行う）
- 4) ボールを投げ上げ、床についたボールをキャッチ。（床に着く回数を変えて行う）

（2）2年1組を救え！爆弾回収ゲーム

爆弾に見立てたボールを体育館にばらまき、それをクラスみんなで協力して時間内にボ

ールかごに回収するゲームである。かごは、バスケットボールコート内のサークル内に置く。

【方法】①体育館全体にボール（爆弾）をばらまく。

②合図と共に爆弾を取りに行き、かごの中に回収する。（かごは2～3個設置）

③一人1個ずつしか爆弾は回収できない。

④かごに回収するときは、サークルの外から投げて入れる。

⑤外した爆弾は、自分で拾いに行き、回収する。

⑥制限時間内に爆弾をすべて回収できれば良い。

ボールを体育館全体にばらまいた後、上記の方法を実際にやって見せて説明する。そして、明るく楽しそうな声で次の指示をする。

指示2 2年1組を救え！爆弾回収ゲーム。1分30秒以内に爆弾を回収します。一人で何個回収しても良いです。よーい、ドン（太鼓）。

見事、時間内に回収できたら「すごいなあ、さすがに2年1組だ」と、大いに褒める。そして、「あー、ここで悪者怪獣がやって来たあ」と、言って回収された爆弾を再度、体育館全体にばらまき、次の指示をする。

指示3 2年1組を救えパート2！爆弾回収ゲーム。1分30秒以内に爆弾を回収します。やり方はさっきと同じですが、今度は、爆弾を運んでくるときにドリブルをして来ます。よーい・ドン（太鼓）

子どもたちは、夢中になって爆弾（ボール）を拾いに行き、かごに投げ入れる。

入ったことが「プラスの自己評価」となり、更なる意欲になる。外した場合も自己評価となる。

また、自分で拾いに行くことから「運動量の確保」にもつながる。

パート1・パート2は共に、回収かごは定位置に設定されたものである。つまり、動かない的をねらうものである。

次のステップとして「決まった範囲を動く回収かごに、爆弾（ボール）を投げ入れる」とする。これにより、動く的をねらう運動（例えば転がしドッジボール等）につながる。

子どもは楽しみながら、基礎技能を身に付けることができるのである。

5. エピローグ

実際の授業では、手でボールを扱う遊びの後に、足でボールを蹴る遊びも行っているが、その実践については別の機会にしたい。

私が願うのは、次のことである。

体育好きの教師と、体育好きの子どもによる、楽しい体育の授業

今回示した内容は、至って簡単なものである。しかし、そこには教師の意図があり、子どもに付けさせたい力が含まれている。簡単な運動だからこそ、どの子にもできる。できるから、次の意欲に繋がる。その意欲を喚起するために、ほんの少し「変化」を付けて課題を与える。リズムよく、テンポ良く行うことで、授業は楽しくなる。

また、「汗をかくほどの運動量」を確保するのが、体育の授業である。最近、汗のかかない体育授業をよく見る。小学校の体育は、「楽しくなきゃ体育でない」のである。そのためにも、やはり、教師は学び続けなければならないのである。